

市民がつくる
市民が学ぶ
市民が拓く
生涯学習情報誌

Stage

月刊ステージ・アップ

up

'96
12月号【1日発行】

かわさき市民アカデミー春の公開講座
夜間3コース、昼間1コース募集



いまを話す

なぜ増える

妻が迫る定年離婚

横溝 正子さん

日本女性法律家協会会長

安息与える風景探し散策

一科会所属 清水 幹子

表紙絵を制作して

「川崎百景を」との希望で、「ステ
ージ・アップ」の表紙絵を描いた一
年。田なる川・多摩川に連れ添うよ
うに細長い地形の川崎。岡本かの子
もこよなく慈しんだ川である。ダヴ
インチの「川は人間の血液である」
との名言のもつ意味はいまも重く大
きい。人間との関わりの中で自然は
大きく変容した。ひとときの安息を
与えてくれる風景を探し求めた散策
でもあった。工業地帯の現代アートの
ような構築物から、緑豊かな多摩
丘陵までの風景。そこには自然と市
民生活の抱^{かか}りがあり、生息する生き
物たちがいる。

浮島。羽田空港を離発着する飛行
機の騒音の海で、浮遊するカモやカ
モメ、そして釣り人。海辺公園では
野鳥が虫を啄^くみ、中年カッパルが木
陰で語らい、子供たちが遊ぶ。近く
を数隻の船が往来、ふと故郷の海を
想う。風のざわめきが水面を煩^{わづ}り
ながら律動させ果てしなく続く波動
空と海のおりなす青の世界。いつて
も海は心を開放し夢想させる。

多摩川河口近くの湿原。残り少な
い干潟に寄り添う野鳥の群れ。白鷺
、カモ、カワセミ。水質が良くな
り魚も豊富になった証し。休日には
市民の遊びの空間。この小さな湿原
が消滅しないことを祈る。

早野霊園。多摩丘陵の森をそのま
ま残した市の新しい施策の墓地。落
ち葉の雑木林があり、狸や狐などの
貴重な動植物の宝庫。ウオーターリ
サイクルとグリーンリサイクルを基
本理念に、コンクリートや石油製品、
農薬を使用しないで造成された。
池の工事を見たとき、市職員が目
然と動植物に配慮した優しさに感動
した。ほぼ自然のままの緩やかな傾
斜地に、蛇籠^{へびかご}包みにした小石を置く
と、水は石の隙間から地下水となつ
て樹木を潤し、あふれてた水は川へ
流れるシステム。春にこの池を訪れ
たとき、牛蛙^{うしづゐ}のオタマジャクシが一
塊になつて泳ぎ、葦が繁り、竹林、
墓碑が自然と溶け込む美しい風景を
醸し出していた。狸も水を飲みに来
る。

行政が、自然を生命体と位置づけ、
人間に還元する自然との共生を試み
たケースは、全国的にも希であろう。
森羅万象は、われわれにアルファ波
のバイオリズムを発光してくれる。

* * * * *
'97新春号から杉本繁さんが「ステ
ージ・アップ」表紙絵を受け継いで
描いて下さることになりました。氏
の豊かな感性と素晴らしいデッサン
によって、市民の方々が「新しい川
崎」を発見されることでしょう。

Stage Up 12 月号もくじ / 1996年

■ほんねインタビュー いまを話す 3

日本女性法律家協会会長 横溝正子さん

なぜ増える 妻が迫る定年離婚

どう紡ぐ、男と女の生き方

●はりきってます グループ紹介 8

フォークダンスを楽しむ

打矢会(川崎区)

健康な体づくりへ

ヘルシー料理研究会(宮前区)

●学習・文化情報 / 会員募集 10

◇読者の声 / ミニニュース / 編集後記 14

◆市民アカデミー公開講座の受講生募集 15

◎表紙絵……多摩丘陵(黒川)の黎明

——清水幹子さん

(小誌は再生紙を使用しています)

いまを話す

ゲスト

日本女性法律家協会会長
横溝 正子 さん

Vol.50



——川崎で最初に女性弁護士に
なられたそうですね。

横溝さん 夫の父・横溝貞夫は川崎でもっとも古い弁護士。夫の徹も弁護士で、私もここで開業し、最初から仕事を一人で任ざれました。なりたてのころ、道をふさいだ鉄条網を取り除く仮処分するとき、執行官が「先生一人できたの」と驚いてましたよ。実は義父から「正子さん、追い掛けられたら、気ばらずにさっさと逃げなさい」と教えられて行ったの（笑い）。

——当時、女性弁護士への世間

の風当たりはいかがでしたか。

横溝さん 弁護士が女性と知り、相手が戸惑ったときは、気がつかないふりをする、気にしなくなくなりますね。若い女性弁護士に「素知らぬふり」をアドバイスします。

——弁護士になられた動機は。
横溝さん それ成り行きなのね。小中学生のころは、教師が栄養士になろうと……姉が持ってきたパンフレットに明治大学女子部（短期大学）に法律科があるのを知り、社会科が好きだったこともあって、そちらへ進みました。

——女にとって足枷のある時代でしたが、ご両親の反応は。
横溝さん 私の両親は教師で、母から「女の子も自分で餌を拾えるようにならなければ駄目」と言われて育ったの。専業主婦になる気はなく、仕事をするのが当然と思っていました。滔々と民主主義を追求する時代に、中学の先生からしばしば「女性もきちんと職業を持ちなさい」と言われ、その影響もあつたのでしようね。

——恋愛結婚だったのですか？
横溝さん 結婚も成り行きなの。夫は司法試験受験グループの友人で、その延長なのね。燃えるよう

なぜ増える妻が迫る定年離婚
どう紡ぐ、男と女の生き方

妻が夫に突き付ける定年離婚。男も女も生き方を問い直し、新しい関係を紡ぐとき。横溝正子弁護士は「仕事人間を追求してきた社会の反映。女性が参画し社会システムを変えなくつちや」。あつづけらんと、「私の人生、成り行き人生」と笑う姿に日本女性法律家協会会長の厳めしい肩書は感じられない。いろいろな分野で弁護士のノウハウを提供したい」との思いは一昨年、横浜弁護士会初の女性会長に就いて、市民が「困った」「裁判するまでもないが」と悩んだとき、弁護士が気軽に相談に乗る「あつせん・仲裁センター」設立につながる。体験を基本に据えた温かな人柄としなやかな感性で、男女共同社会づくりに貢献。インタビューアは椎野和枝さん。

母が教えた「女も自分でエサ拾え」 本当に女は強くなったか

な恋ではなかったの（てれ笑い）。
司法試験に合格してすぐ結婚した
んです。

——共働きですね。

横溝さん 私は、昔流にいうと
「長男の嫁」。仕事第一で、家の
ことは何もしないと思っているの
でしょ。両親と同居して、義母を
看取っているんです。義母は良妻
賢母の教育を受け、夫と子供のため
に生きた人でした。でも、夫に
依存した暮らしに心の底で不満を
感じていたようで、息子に「仕事
を持つ人を奥さんにしなさい」と
言っていたそうよ。私にはきちん
とした嫁を求めながら、よく協力
してくれましたね（しみみりと）。

——良妻賢母として生きながら、
固定した男女の役割分業に疑問を
抱き、横溝さんを支えていたと。

横溝さん 賢く慎ましい人で子
育て、家事をきちんとやり、家計
と事務所の財政を握っていました
が、賃金を得ていない引け目を感じ

じていたようです。義母のような
女性、今でもかなりいると思うの。

——戦後、女性は強くなったと
いわれますが。

横溝さん 強くなったように見
えますが、いざとなると弱いもの
ですよ。例えば、夫婦の財産は法
的には別産制だから、夫の給料は



夫のものです。家を購入しても妻
に所得がなければ、妻名義になら
ないのが現実です。また、離婚す
れば妻にいく財産は三分の程度
で、女性の経済的立場が弱いこと
があらわになるわけです。

横溝さん 年金も基礎年金だけですし。
ドイツのように、離

婚しても共同生活をしていた年数
に合わせて、年金が分配されるよ
うに頑張らないと……。

——長年審議されてきた民法改
正案も上程されませんでしたね。

横溝さん 全く残念です。改正

案の骨格は、結婚年齢が現行では
女性十六歳からを、男女とも十八
歳に統一する▽夫婦の姓を選択的
別姓にする▽離婚の原因が破綻主
義になり、五年間別居が続くと原
則離婚できる▽相続は非嫡出子と
嫡出子が平等になる——というも
のです。見送られたいちばんの原
因は夫婦別姓問題。同姓、別姓い
ずれも選択できるのに、別姓だけ
との誤解と、同姓が家族の絆との
主張が、反対の根拠でした。

——家制度の考えが根強かった。
横溝さん 「反対」の背後には
家名を重んじ、戸主が支配した昔
の家制度の思想があるのです。で
も、家名で絆は深まりませんよ。

「だれかが支配し、それに依存し、
なんとなくまとまっているのが絆」
は幻想です。これは支配と従属の
思想ですよ（断定的な口調で）。

——個人と個人が本当の信頼感
で結ばれた新しい家族の在り方が
求められていると思います。

横溝さん 男女という枠に縛ら
れ、心も体も解放されないのは、
不幸なことだと思っんです。一人
一人が個を確立し、お互いに連帯
し助け合う。それがこれからの家
族の在り方だと思っんです。

——時代が変化していますが、
どのような相談が多いのですか。

横溝さん 結婚生活が駄目にな
つたら、結婚にしがみつかず、
新しい人生に向かって歩き出す人
が多くなりましたね。昔は離婚は
「経済的困窮」と「人生の失敗者」
という烙印を押されることを恐れ
て我慢しました。今は、その両方

横溝 正子 さん

よこみぞ・まさこは1935年、埼玉県生まれ。
明治大学法学部卒業後、国立がんセンターに勤務。
68年、川崎区で弁護士開業。82年「かながわ女
性プラン」、83年「かわさき男女共同社会をめざ
す計画」策定に関与。86年に川崎市女性問題推
進協議会会長、90年に「かながわ女性会議」代
表を務め女性行政推進に尽力。94年、横浜弁護
士会会長。現在、川崎市人事委委員、神奈川機
会均等調停委員（労働省）、法律扶助協会神奈
川県支部長、日本女性法律家協会会長。夫の徹
さん、娘の久美さんも弁護士。逗子市在住。

ほんねインタビュー

が薄れましたね。離婚の薦めでは
ありませんが、得体の知れないも
ののために自分の人生を犠牲にす
ることはない。どこへいっても道
はあるのよね。

——そういう意味では、女性も
元気になった感がありますね。

横溝さん ええ。でも男の方が



そのことに気づいていないのね。
離婚における破綻主義についても
妻のほうが「五年別居」に反対し
ていると思うでしょ。ところが統
計上は、女性からの離婚調停・裁
判のほうが多いんですよ。

——俗にいう定年離婚もですか。
横溝さん そうです。男のほうが

家族のきずなは
同姓で深まるか

妻が絶縁状 個の確立と連帯こそ 尊厳無視つづけ

が離婚されたという屈辱感からか
離婚を拒否するケースが多いのね。
世間へのミエもありますね。女の
ほうが「お金はいらない。離婚し
ます」という人が多いんですよ。
夫は、なぜ妻が離婚を求めるのか
理解できないのね(首を振る)。

——実際にあったケースですか。

横溝さん そうよ。退職金が出
る間際のケースで「僕が稼いで、
ちゃんと月給を渡してきたのに、なん
の暮らしをさせてきたのか」と男性
が言うんです。ごく普通のおとな
しい感じの人でした。「この人た
ちの結婚生活って何だったんだろ
う」と初老の域に入った男性が氣
の毒に思いましたね。

——古い規範や枠にとらわれて
いる世代ですね。

横溝さん こんな過激なケース
もありましたよ。夫は昭和ひとけ
た生まれで、一流大学を出た一流
企業の部長。妻は女子大出の専業

主婦。子供も大きくなったので、
奥さんが夫に内緒で友人のコーヒ
ー店を手伝っていたら、ばれてし
まったのね。土砂降りの日、夫が
妻を庭に引きずり出し「おまえの
やったことは、俺の面に泥を塗っ
たことになる」と、奥さんの顔に
本当の泥を塗ったんです。妻が稼
ぐのは男の沽券(ごけん)にかかわる、とい
う感覚の人、今でもいるんですよ。

——古い物差しを変えない。

横溝さん 証人調べのとき「僕
には財産がある。老後、僕と一緒に
いれば安心だよ」というのね。
性別役割分業で、お金さえ稼いで
くれば夫の義務を果たしている。



何を血迷って離婚を迫るのかとい
う感じでしたね。彼女にしてみれ
ば、長年の感情の積み重ねがあつ
て、あの日、顔に泥を塗られた屈
辱感が引き金になって、離婚を決
意したのね。

——男は「取るに足らない一時
的なけんか」と思っていたのでし
ょう。女は、長年の結婚生活の中
で、これまで自分を生き生きさせ
る暮らしがあつたのかと……。

横溝さん 豊かな生活を捨てて
も人間としての尊厳を持って生き
たいと思う女性も多いと思うのね。
世の男性は「おい、お茶」「テ
レビのチャンネル回せ」が、妻に
屈辱感を与えていないか、考えて
ほしいですね。

——男はすべて駄目というので
はなく、横溝さんご家族の中の男
性のような素晴らしい方も大勢い

椎野 和枝 さん

しいの・かずえ=1934年、
京都市生まれ。同志社教育、
毛利菊枝演劇研究所卒、NH
K婦人学級世話人、広島女性
史研究会を経て80年から川崎
に住み「女性の学習情報をつ
なぐ会」、東洋大学特別研究会
「21世紀の女性」、川崎「ぶら
すI」に所属。共著は「山陽
路の女たち」デキスト現代女
性読本」。麻生区白山在住。

人間らしき妨げる効率第一 男も家庭で責任担える社会を

ますが、どこが違うのでしょうか。
横溝さん 洞察力のある人は、人間の気持ちをよく見詰め、時代を超えて人の個性を大事にすると思うのね。横溝の父も明治の人でしたが、私のこともちゃんと分かってくれました(しみじみと)。

——ところで、男女雇用機会均等法が制定されて十年、見直しが進められています。働く女性の現状について、使用者側の理解がいまひとつのような気がします。
横溝さん 使用者側の考えも変化してきていますが、労働の根幹は男性で、女性は補助的・定型的な仕事や短期労働を担うという考



え方ね。現行法の問題点は、募集・採用・配置・昇進は努力義務▽教育訓練・福利厚生は労働省が決定した一定の事項についての平等▽定年・退職・解雇は全面平等の三段階になっていることです。

——女子学生は就職氷河期、中年女性はパートで不安定雇用。現行法の矛盾が端的に表れています。
横溝さん 今度の改正案では、募集・採用から解雇までの全ステージで差別を禁止する▽男女差別があったとき、機会均等調停委員会の調停により紛争を解決する制度がありますが、相手の同意がなければ、調停ができないなどの要件があり、機能していなかったの。これを相手の同意なしでも調停できるようにする▽労働基準法の時間外、深夜労働制限などの「女子保護規定」については、時間外・休日労働・深夜業は男女共通の上限を設けた法律とセットで撤廃し原則、男女平等にする、などです。

この三つが大事で、諸外国の論理的、合理的な法制を見習うべきと思います。

——「保護か平等か」「保護も平等も」という論議がありましたね。

横溝さん 原則は平等。男も女も人間らしい生活をするための規制を法律で定める。労基法に「人足るに値する」という言葉がありますが、そこが重要です。ただ、



「女性の長時間労働、家庭での責任との両立、子育てはどうなるんだ」とか「女だけが、保護も平等もでは逆差別」「規制があつて女性希望分野に進出できない」という意見もあり、今後の課題です。
——男女とも、家庭での責任が重たいことですね。

横溝さん 子供は個人の家庭を超えた社会的存在であり、母性保

護は社会的課題ですから尊重する方向です。日弁連では、妊娠障害(つわり)休暇の新設を提案しています。使用者側にすれば「女性は休む、辞める不安定要素の労働者」で、効率は男性のほうがいいわけです。でも、このへんで使用者側も、効率や利益だけに目を向けないで、社会全体が人間らしく生きられるシステムを考えてほしいですね。

——本場にそうですね。

横溝さん 定年直後、男が女性に離婚を突き付けられるのは、仕事人間を追求してきた社会の反映なんです。男が効率の奴隷になっていた証なんです。企業が「利益はほどほど。働く者がいきいき」との発想に転換しないと。

——そのためにも、女性が企業の中核で活躍してほしいです。

横溝さん 本場にそうですね。労働者十人のうち四人は女性ですが、女性の管理職が少ないのね。管理職は、職場で重責を果たすのですから、女性はチャンスに挑んでほしい。管理職が過重労働なら、そこに働く人たちの連帯と法的規制が必要ですね。

——それと、行政の政策決定に

影響を与える委員会や審議会へ女性がつと参画することも……。

横溝さん かながわ女性会議にしても、弁護士会としても、女性委員の参加率を高めるため、長年自治体に働きかけてきました。国のプランで、女性の参画は最終的に五〇%、当面三〇%との目標があるんです。現在、国は一五%強ですが、神奈川県が一・八%、川崎市が二〇・八%と全国トップクラスです。

——一人の方がいくつもの委員を務めるなど、選出方法に問題があるとの指摘もあります。

横溝さん 金太郎館かねたろうかんのような委員選びは改めるべきね。国は一人四つまでと決めていきます。逗子市のように公募を多くすれば、学識・専門・市民の各代表がいて、調和のとれた答申が出せるのではないのでしょうか。

——審議会が「行政の隠れ糞」との意見もありますね。

横溝さん 市民代表の議会のほかに、委員会を設けているのは、行政の足りない部分に、政党に左右されない市民の声を反映させるためでしょ。行政追隨の意見では意味がなく、一歩でも行政の先を

いく提言を出す。それを行政が尊重し政策として実行に移していくことが大事です。市民も「提言即実行」とあせらないことです。

——昨年の北京世界女性会議の行動綱領を受け、国や自治体の男女平等推進プランが策定されます。「自分の生活に結びつかない」という女性も少なくないようですが。



横溝さん 一九八〇年のコペンハーゲン会議のとき、ある新聞の社説が「遠くの鐘を聞いているよ」だ」と書いたんですね。いまもあのときの社説のように思っている女性もいるでしょうね。でも、世界や自分たちの生活がずいぶん

変わりましたよ。女性の立場を強める法の整備も女性たちの運動があったからです。人ごとだと思わず、声を出し署名運動などをする

ことで、世の中が変わることを女性自身が知ってほしいですね。特に老人介護や介護保険の問題は、女性とのかかわりでも重要です。

——昨年まで横浜弁護士会初の女性会長。取り組まれたことは。

横溝さん 紛争が起きた際、市民は泣き寝入りするか、裁判に持

つていって白黒をつけるかです。でも、裁判には長い時間と費用がかかり、あきらめる人も多いんです。それでは公正な社会は保たれません。身近に利用できる分かりやすい司法をめざし、弁護士会がサービシ的に民間の裁判所として機能する「あっせん・仲裁センター」を設立しました。電話045(211)7716、横浜弁護士会をつくる。市民に身近な自治体との連携を強めるため、県内の全自治体を訪問するこ

とを会長就任の公約としたの。皆さんの協力で任期中に実行することができました。

——このほど、日本女性法律家協会の会長に選ばれましたが、今後の抱負をお聞かせ下さい。

横溝さん 全国をネットワークにした女性弁護士による法律相談と、各地の女性会館と女性法律家をつなげて、何かができたらと思っています。

——ところで、要職に就くときのプレッシャーは？

横溝さん 昭和六十二年に横浜弁護士会副会長になったとき、女性会員が約六%の男社会なので、並々ならぬ決意で臨みました。でも、どうってことなかったの(笑い)。それ以前の五十六年に、逗子市公平委員を引き受けたときも責任が果たせるか心配で、夫に相談したら「ケネディは四十代で大統領になった。どうってことない」と言われ、やる気になったの。夫は母親を尊敬していたので、女性蔑視がなく、私の仕事にも理解と協力があるのです。

「女が世の中かえる」確信を

☎045(211)7716

身近な
弁護士
あっせん・仲裁センター

題字は高橋清・川崎市長
構成/野々川千恵子
文責/田中 閑

はりきってます グループ紹介

仲間と楽しむ

学び

活動する

仲間と楽しむ



ステップ軽やか 健康・笑顔が宝

やかにステップを踏む。

活動は、打矢悦子・市日進町老人福祉センター体育指導員の指導で、月三回土曜の午前、プラザ田島で行う。八十曲以上のレパートリーの中から毎回二十曲も踊る。

男性会員が少なく、女性の中から男性役を選び、男女が二重の円をつくる。「下町の太陽」のメロディーが流れると、ペアの二人が手を取り、腰に手をあて、リズムカルに歩を進める。

「左足を横に出し、右肩で回つて」と振り子を頭に描きステップを踏む。パートナーが替わると目を合わせ、声を掛け合う。「すてきな洋服ね」と踊りながらの会話も。一曲ごとに、パートナーが八人交替するが、踊っている時の会員の表情は青春そのもの。

この日、会員たちをてこずらせたのが「おおさザンナ」に出てくる「グランドチエーン」。縄をなうように交差しながら連続してペアが替わるのだが、数カ月ぶりに踊るためか、グランドチエーンが始まると輪が途切れる。

「男性役が端に固まったらダメ。女性は、お婿さんを探して」と、打矢さんがジョークで会員を励ま

す。会場の雰囲気が一挙に和み、会員たちは「婿よ」「嫁よ」と「パートナー探し」をして和気あいあい。「先生が蔵から難しい曲を出すから、分らないんだ」とジョークのお返しに笑いの渦。三度の練習で見事に「連続技」が決まると、思わず全員が拍手。

同会の発足は十四年前。同センターの体育教室の受講者有志が集まりスタートした。

栗原利夫さん(76)は「女性と手をつなげて楽しい。最初は照れくさかったけど」と元気に話す。

最高齢の田代ミサ子さん(84)は「皆さん親切で楽しい。足が痛い、家にいたら余計動かなくなるので続けます」と静かな闘志。

肩を痛め、入会した若生伸子さん(69)は「ダンスを始めて、腕が上がるようになり、楽しいリハビリです」と感謝の声。

市村代表は「音楽に乗って体を動かすのが一番。フォークダンスは六十歳以上の人もでき、楽しみが運動になる健康法」と話す。

同代表宅は川崎区大師町一六の八。☎(2888)2073。

文／小誌・山本 綾子
カメラ／小誌・野々川千恵子

西部劇映画でおなじみの「オク
ラホマミクサー」や歌謡曲「霧に
むせぶ夜」などの音楽に合わせて、
フォークダンスを満喫するのは、
し、健康で長生きしよう」と、軽

フォークダンスを楽しむ

打矢会(川崎区)

はりきってます グループ紹介

健康な体づくり

ヘルシー料理研究会 (宮前区)

健康な体づくりは、まず食生活から。「ヘルシー料理研究会」石井一男代表(71)のモットーは、旬の素材を生かし、安く早くおいしい家庭料理をつくること。一日三十品目を目安に、塩分、油分、動物性脂肪控え目の、体によいお惣菜づくりを学んでいる。

毎月第一火曜日の午後、宮前市民館調理室は、いいにおいが立ち込める。エプロン姿のメンバーの中には男性会員も。料理研究家の百武美智子さんが指導にあたり、毎回、五品ほどの新メニューに挑戦する。和風、中華、フレンチとバラエティーに富み、おやつ感覚で気軽に作れるデザートもある。

十月のテーマは「秋を和食でもてなす」。メインは鶏の照り焼きと里手料理。まず、百武さんから作り方と食材の性質や扱いのポイントを聞く。「鶏は脂肪を取るのがヘルシー料理のこつ」。里手は水に十分つけてから、こうして包丁でむ

くと扱いやすい。ヌメリは、胃の粘膜を保護します。質疑を交わし、五、六人のグループに分かれて実習に入る。手際もチームワークも

良く、和気あいあいと調理が進む。蒸しあがった茶饅頭を見て「あら、破れまんじゅうよ」と歓声がわき、ついでに味見をするグループも。試食で、目も舌も満足げな笑顔がテーブルを囲んだ。

同会は、一九九一年の同館成人学校講座「ヘルシー料理」の修了者らで発足。二十代から七十代のメンバーは、包丁さばきや素材の

扱いも実践の中で覚え、小さな疑問も解決できる。レパートリーが広がり、家庭料理が豊かになる、と家族からも喜ばれている。

百武美智子さん(61)は「月一回のお食事会と思つて楽しんでほしい。無理せず、簡単にだれでも作れることが大事です」と話す。渡辺信夫さん(62)は「家内は文化活動で多忙。自分の口を守るために始めたんですが、作る喜びと、それを味わえるから楽しく」と料理に魅せられている。

入会したばかりの嶋崎葉末さん(64)は「二十年間、パンと菓子の教室を開いていましたが、転居を機にお惣菜を勉強したくて。六十歳を過ぎたらよりヘルシーに。まさに生涯学習です」と意欲的。

食へ盛りの子どもを持つ山下八栄さん(39)は「習つたお料理、おいしいんです。先月のメニューの月見団子も大好評でした」と、家族の喜びまで伝わる笑顔。

同代表宅は、宮前区土橋一の八の一A二〇四。☎(888)0764。

旬の素材いかし
安く早くうまい
究極の家庭料理

文／小誌・野々川千恵子
カメラ／小誌・山本 綾子

学習・文化情報

探していた講座がある

講座・講演

「点字入門講座◆川崎授産学園」来年1月20日～2月24日の毎週月曜10時から、全6回。視力障害者から実情を聞き、朗読のボランティア活動も。2千円。25人（抽選）。申し込みは1月4日（土）までに往復はがきに住所、氏名、電話番号を記し〒215 麻生区細山1209の同園。☎（954）5011。新百合ヶ丘駅からバス。

「スポーツコーナー利用講習会◆県立川崎青少年会館」12月21日（土）18時半から。ウェイトトレーニングの基本と利用法。対象は16歳以上。無料、保険料千3百円。15人。申し込みは☎（222）5282の同館。

「①女性学級②環境実践セミナー③エコクッキング編④さいわいのマイスター発見⑤成人学校⑥心とからだのいいいき最新術◆幸市

民館」①は来年1月16日～2月27日の毎週木曜10時から、全7回。生き方を迷い、悩む女性たちへの社会学。無料②は来年1月22日（水）10時から、平成の大根めしやどりの唐揚げ梅風味など、早く無駄なくおいしい料理を作る。材料費8百円③は来年2月8日（土）14時から、「天然酵母パンへのこだわり」について、講師の早坂六七八・サンフルール九十九社長が。参加費百円④は来年1月17日～3月28日の毎週金曜13時半から、全10回。西洋・東洋医学、快眠術についての講義と実践。体脂肪測定も。受講料4千円、教材費千円。定員は先着30～40人。①②は3歳以上の予約制保育あり。申し込みは①12月19日（木）②1月8日（水）③1月18日（土）④1月10日（金）のいずれも10時から ☎（541）3910の同館・社会教育振興係。

「麻生地域セミナー◆市生涯学習振興事業団ほか」

12月8日（日）9時半から、バリアーのないまちづくりについて話し合う▽15日（日）9時半、鶴川駅改札口集合。真光寺川の水辺を歩く。保険料・資料代3百円。申し込みは前日までに☎（951）1300の麻生市民館。

「①シンポジウム～現代写真の展望「ベッヒャーの地平」②講演会～トーマス・シュトルトの仕事◆市民ミュージアム」①は12月14日（土）13時から。写真家ベルント&ヒラ・ベッヒャーの作品の意味と意義を論議、検証。パネリストは、ドイツ側がグイヒトー・ハレ美術館のズデネック・フリックス館長ら2人、日本側が千葉成夫・東京国立近代美術館主任研究員、清水穰・同志社大学言語文化センター助教ら4人②は12月15日（日）13時半から。国際的に活躍する写真家のトーマス・シュトルトが現代美術における写真の可能性と問題点を語る。いずれ

も無料。定員3百人。問い合わせは☎（754）4500の同所。

「水墨画入門教室◆サンライフ川崎」来年1月17日～3月21日の毎週金曜18時半から、全10回。講師は岡田雪山・全日本水墨画会会員。受講料2060円、教材費3510円。定員先着30人。申し込みは12月15日（日）から☎（344）1777の同所。月曜休み。八丁驛駅下車。

「わくわく実験教室◆東芝科学館」12月14日（土）10時～13時から。「省エネって知ってる？」をテーマに実験と分かりやすい解説。定員は各回250人（要予約）。対象は小学生以上。親子参加歓迎。入場無料。申し込みは☎（549）2200の同館。川崎駅からバス。

「神奈川ニューライフカレッジ公開講座「メイク&カラーセミナー」◆登録ドレズメーカー学院」12月14日（土）15日（日）13時から、メイ

クとカラーの基礎知識を。日ごろ使用の化粧品持参。定員先着20人。受講料1万円。申し込みは午前中に☎（911）2221の同学院。向ヶ丘遊園駅下車。

「講演「だっ子は誰のせい？」◆宮前市民館養生分館」12月8日（日）13時半から。「母親の自立と育児のいい関係」をテーマに、雑誌わいふの田中喜美子編集長が。対象は0～3歳児の育児をしているか、関心のある方。参加費8百円。申し込みは14～18時に☎（852）1112の山田さん。

「①カラー写真プリント講座②中級写真講座（ステップアップ・フォトグラフィ）◆市市民ミュージアム」①は来年2月2日（日）9日（日）11日（日）13時から、全3回。その原理とプリント実習。講師は写真家・大高隆さん。受講料1万8千円。定員8人（抽選）②は来年1月25日～3月1日の毎週土曜13時から、全6回。モ

市外局番のないものは044

学習・文化情報

学習・文化情報

参加したい催しがある

催し



ノクロ印画紙現像をして、組写真をつくる。講師は写真家・伊奈英次さん。受講料1万円。定員16人(抽選)。
①②とも材料費は各自負担。対象は暗室技術を修得している方。申し込みは往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号と①は使用カラーフィルム・カメラを、②はどのような写真を撮りたいかを記し返信用のあて名も書き、①は1月13日(月)までに、②は同6日(月)までに〒211-1 中原区等々力1の2、同館各講座係。問い合わせは☎(754) 45000の同館写真部門、深川・林。

ケを作り、民家の小正月を体験。教材費込み800円。20人(抽選)。申し込みは12月22日(日)までに往復はがきに住所、氏名、電話番号を記し〒214多摩区枳形7の1の1、同園。☎(922) 2181。
「麻生区俳句大会作品募集」◆麻生文化センター」募集句は未発表作品を2句1組で何組でも可。投句料は1組千円。郵便番号、住所、氏名、電話番号を併記した2百字詰め原稿用紙に作品を楷書で記す。選者は橋本風車さん、宮城白路さんら29人。市長賞、市市議会賞など7賞あり。応募は12月5日(休)までに〒215麻生区万福寺1の5の2、同センター内、麻生文化協会同大会係。大会は来年1月25日(土)、同センターで。問い合わせは水曜10~15時に☎(951) 13000の同協会事務局。

各10人。卓球はラケット、室内靴持参②は12月15日(日)10時から、等々力緑地周辺を探索。対象は小学3年以上。20人。弁当、双眼鏡、防寒具持参。いずれも無料。申し込みは☎(222) 52822の同館。
「わたしの木」写真、スケッチ募集◆麻生市民館」作品は、麻生区に生育する木。スナップ写真は、サイプレス版+同寸法の紙に思いを記す。スケッチは官製はがき大、文字入りも可。作品は1人3点まで。応募は12月20日(金)までに住所、氏名、木の名前、場所を記し〒215麻生区万福寺1の5の2、麻生市民館・地域セミナー担当係。☎(951) 13000。
「チョコレート・考」◆アートガーデンかわさき」12月18日(休)~来年1月16日(休)10時から。チョコレートにみる文化の現在・文化の半世紀」をテーマに作り方、消費・分類のパネル▽パツケージ・コレクション展示。入場料は大人300円、学生200円、中学生以下は無料。

問い合わせは☎(222) 8821の市文化財団。
「①星を見る夕べ②天体写真撮影会③生田緑地ミニ観察会④自然観察会⑤天文講演会」◆市青少年科学館」①は12月14日(土)21日(土)17時半から。月、土星、星団を見る。雨、曇りはプラネタリウムで星の話②は来年1月26日(日)12時から。月撮影対象は小5以上。一眼レフカメラボディ、フィルム、レリーズ持参。雨天中止③は12月1日(日)9時から野鳥観察。生田緑地東口駐車場に集合。雨天の時は科学館で野鳥のビデオを▽7日(土)13時半から植物観察▽15日(日)13時半から地質の観察。雨天決行④は12月21日(土)13時半からコケに親しむ。雨天中止⑤は来年1月25日(土)16時半。同館集合。③④は筆記用具、図鑑、ルーペ、双眼鏡持参。①③の小学生以下は要保護者。いずれも無料。申し込みは②12月22日(日)④12月3日(火)⑤12月1日(日)の9時から☎(922) 4731の同館。
「冬休みイベント①親子

—由比意出男さんを思ふ~追悼集出版記念のつどい—

日時: 12月7日(土)14~16時

会場: ユニオンビル2F

(武蔵小杉駅下車徒歩3分 ☎733-2211)

会費: 5千円(追悼集代金をふくむ)

●申し込み・問い合わせは ☎866-5785の安藤

由比さんは、優れた市民活動家で、小誌の'93年夏季号「いまを話す」のゲストです。理論と行動が一致し、温厚な人柄の由比さんは市民民主主義の発展に欠かせない人でしたが……

●主催 つどい実行委員会

学習・文化情報

ききたい音楽がある

ボーリング大会②パターゴルフ大会③マルチメディアパズル大会◆東芝科学館」12月24日(火)・26日(木)①は10時半から。手作りのピンとポールで楽しむ②は13時15分から。本物の道具を使う③は10時と15時からの2回。パソコンを使ったゲーム。定員は①②は先着各2百人③は各回50人。多数の賞あり。問い合わせは☎(549) 2200の同館。川崎駅からバス。

「工房赤いふうせん」染めと手織りの展示・即売会」◆小田急新百合ヶ丘エルミロード5階広場」12月6日(金)・9日(月)11時から。ウール、絹の染め、織りのストール、小物、ベスト、ジャケット他。新百合ヶ丘駅下車。「工房赤いふうせん」は知的障害者の地域作業所。問い合わせは☎(935) 2678の同作業所。

スポーツ

「寒げいこ◆石川記念武道館」来年1月4日(土)10時～20時30分、5日(日)10時～

15時。5日12時と15時、寒げいこ参加者による鏡びらき。定員は剣道百人、その他50人。小学生以上。参加費無料。申し込みは12月8日(日)10時に☎(544) 0493の同館。

「①たのしい卓球②やさしいバドミントン◆幸スポーツセンター」①は来年1月16日～3月27日の毎週木曜10時から、全10回②は来年1月22日～3月26日の毎週水曜13時半から、全10回。対象はいずれも15歳以上で①初級者②は初心者か初級者。受講料各4千円、教材費は①5百円②2千円。定員各30人(抽選)。申し込みは1月9日(木)9時55分と同所へ来館。☎(555) 3001。

「①バレーボール②新卓球(ラージボール)③はつつ健康体操④親子ピクス◆市とどろきアリーナ」①は来年1月17日～3月28日の毎週金曜10時から、全10回②は来年1月22日～3月26日の毎週水曜9時半から、全10回③は来年1月21日～3月25日の毎週火曜13時半

から、全10回④は来年1月17日～3月28日の毎週金曜17時から、全10回。対象は①215歳以上③60歳以上④4、5歳児と保護者。受講料は④3千円、他は4千円。②のみ教材費5百円。定員は④30組、他は40人(抽選)。申し込みは1月9日(木)①②9時55分③13時25分④16時55分と同所へ来館。☎(798) 5000。

「①基礎から学ぶダンベルエクササイズ②卓球入門◆麻生スポーツセンター」①は来年1月14日～3月25日の毎週火曜10時から、全10回②は来年1月25日～3月29日の毎週土曜19時から、全10回。対象は15歳以上で②は初心者。受講料4千円。定員40人(抽選)。申し込みは①1月7日(火)②1月18日(土)9時55分と同所へ来館。☎(951) 1234。

「メサイア公演◆麻生文化センター他」12月12日(木)18時開演。会場は同センター▽15日(日)13時半開演。会

ステージ



場はサントリーホール(地下鉄赤坂駅下車) 写真は昨年▽19日(木)18時半開演。会場は県立音楽堂(桜木町駅下車)。指揮は星出豊。演奏は昭和音楽大学管弦楽部同合唱団、昭和音楽芸術学院合唱団。独唱は五十嵐郁子(ソプラノ) 相澤真由美(アルト) 於保都夫(テノール) 中村靖(バス) 他。入場料は15日は全席指定2千円、他は全席自由千5百

円。問い合わせ☎(953) 1230の同院。

「クリスマス・コンサート◆玉川学園講堂」12月20日(金)18時開演。小佐野圭のピアノ独奏▽尾尻雅弘、斉藤明子のギターデュオ▽声4部「アーカンス・フォー」のコーラス。入場料は大人3千円▽ペア券5千円▽幼児・大学生2千円。問い合わせは☎0427(39) 8895の玉川大学継続学習センター。玉川学園駅下車。

「少年の祭典「ボレロ」◆市教育文化会館」12月15日(日)16時開演。千人の市民がラヴェル作曲「ボレロ」を大合奏・大合唱▽イペール「間奏曲」▽三木たかし「友達はいいもんだ」他。無料。問い合わせは☎(933) 8107のボレロを楽しむ会事務局。

「クリスマスことものためのコンサート◆糞ホール」12月7日(土)15時半から。出演は井上直子(バイオリン)▽中山育美(ピアノ)▽室井佳子(うたとお話し)。曲目は第一部がバイオリン名

学習・文化情報

魅力的なグループがある

曲集マスナー「タイスの瞑想曲」、クライスラー「美しきロスマリン」愛のかなしみ「愛の喜び」他。第2部が音楽物語「ジャックとまめのき」。第3部がクリスマスソング集「みんなで歌おう」赤鼻のトナカイ「もみの木」あわてんぼうのサンタクロース。入場料一般2千円、中学生以下千円。申し込みは☎(812)6090の同ホール。チケットは岩崎酒店・同ホール階で。溝ノ口駅下車。

「伝統と現代」日独青少年交流コンサート◆ドイツ文化会館(地下鉄銀座線青山1丁目駅下車)ほか12月15日(日)14時半開演▽17日(火)17時、調布市文化会館(京王線調布駅下車)で開演。チャイコフスキー「ピアノノ三重奏」偉大なる芸術家の生涯▽林晶彦「オーボエとチェロのためのレクイエム」他。出演は川崎市在住の丸山朋文さん(チェロ)と澤菜穂子さん(バイオリン)ら若き音楽家と95・96年ドイツ青少年音楽コンクール優勝者。入場料は

15日2千円、17日千円。同コンサートは、ドイツと日本で交互に開かれるレベルの高い音楽会。前売り☎(989)1338の丸山さんか☎(954)8434の澤さん。JMLセミナー入野義朗音楽研究所主催。「かわさき市民「第九」コンサート◆市教育文化会

ギャラリー

「市民ミュージアム」来年1月26日(日)まで「ドイツ現代写真展 遠・近 ベツヒャーの地平」展。給水塔、溶鉱炉などの産業建造物を体系的に撮ったベツヒャー夫妻と、その門下生13人の作品。日本初の大規模な展覧会。大人7百円、小学生3百円▽来年3月2日(日)まで「向秀男の広告美学」展。戦後の混乱から高度経済成長へ変容する中、第一線で活躍したアートディレクター・向秀男のポスター、新聞・雑誌広告など180点。一般3百円、小学生2百円。☎(754)

館12月14日(土)16時半開演。指揮は石川真也。独唱は蒲原史子(ソプラノ)竹田千津子(アルト)大野光彦(テノール)松本進(バリトン)。入場料は千円。問い合わせは☎(222)8821の市文化財団。

「定期能く宝生流◆川崎能楽堂」12月7日(土)14時から4500。

「スナック喫茶琴」12月28日(土)まで、乾薫の風景写真展。☎(544)0507。鹿島田駅下車。

「画廊ランブ屋」12月13日(金)23日(月)ランブ屋開廊5周年記念展。版画、陶器、漆器などを展示・即売。火曜休廊。☎(945)4416。稲田堤駅下車。

「ギャラリー幸」12月6日(金)18日(水)「年末恒例の『寿』色紙展」著名な漫画家の作品展示と即売。木曜休廊。27日(金)以来年1月5日(日)まで休み。☎(555)8181。川崎駅下車。

「中村正義の美術館」12月8日(日)まで、「山下菊二と正義」展。一般5百円、学生3百円、小中生2百円。12月9日(月)から冬季休館。来年3月1日(土)から開館。☎(953)4936。読売ランド駅前からバス。

会員募集

●「川崎市民交響楽団」川崎区新川通1・新川橋病院内、内海栄一郎団長。創立44年のアマチュアオーケストラです。これまでに140回の定期演奏会を開き、現在年4回の演奏会を行っています。入団希望の方はお気軽にご連絡を(管楽器の一部パートは待機あり)。練習は毎週月曜18時45分〜21時、県川崎合同庁舎(京浜急行八丁畷駅下車徒歩2分)5階などで。入団費千円、会費月千5百円。連絡は☎(522)6941の中西まで。

●「サークル・フレッシュ」ヨガ(横浜市鶴見区市場上町10の51の310、神谷政春代表)肩こりや腰痛の防止、ストレス発散、心身のリフレッシュに、ヨガを楽しみませんか。いつでも見学歓迎します。写真。講師は飯田成子さん。毎週火曜18時半〜20時、サンライフ川崎(京急八丁畷駅下車7分)で。入会金千5百円、月会費千350円。連絡先は☎045(802)1389の講師宅へ。

●「画行会油絵サークル」がっこうかい。油絵を楽しむませんか。おもに風景画を描いています。初心者の方、歓迎します。講師は古屋忠雄さん。毎週木曜18時〜20時、高津市民館で。入会金2千円、会費月2千5百円。申し込みは☎0427(95)5650の代表宅か☎(811)0156の講師宅へ。



読者の声

小誌の記事が適切で
今後の活動の励みに

高津区新作、板画トキの会

小嶋卯一良さん

会員一同、ステージ・アップ11月号を心待ちにしていました。私たちの「トキの会」紹介記事は、まことに適切でご好意にあふれる内容です。これからの会の活動の励みになると、厚くお礼申し上げます。また、

スナップ写真をいただき、恐縮しています。お陰様で、会はその後も入会希望者もあり順調です。米年のカレンダーづくりに取り組んでいるところですが、12月中旬には出来上がります。同封の版画は、乗鞍高原でスケッチした「まゆみ」です。

言葉の重みと責任痛感
11月号いまを話すゲスト
で音楽家の早瀬一洋さん

ステージ・アップ11月号を送っていただき、ありがとうございます。「いまを話す」を読み、話をしているとの違い、文字になると自分の言葉の重さと責任を感じます。私の話に共感して下さる方が、少しでもいらっしやれば嬉しく思います。スタッフのご苦勞を思い心からお礼申し上げます。

ミニニュース

童謡とクラシックを楽しむ

ろうきんの演奏会

「ろうきん音楽を楽しむ会」——県労働金庫新百合丘支店(細田一夫支店長)主催が10月の日曜日の午後、

白山小体育館であり、「あさお区民まつり」と重なったにもかかわらず、3000人を超える市民が、楽しいひとときを過ごした。

第1部は「麻生童謡をつたう会」が、だれでも一度は口ずさんだことのある「まつかな秋」「サツチャん」など6曲を合唱。「赤とんぼ」の全員合唱のときは、観客の心がひとつに溶け合う和やかなムード。

第2部は若き音楽家「かわさきフレッシュアンサンブル」らによる独奏と室内楽演奏。シヨパンやモーツアルトの難度の高い曲をピアノ、ヴァイオリン、チェロ、フルートの音色で見事に表現して「クラシックのナマ演奏を聴くのは初めて」という中年の主婦も感激の拍手。

同アンサンブルは市立白山中出身者が中心で、メンバーは10数人。この日の室内楽は、森忠清香(ピアノ)柳原有弥(ヴァイオリン)丸山朋文(チェロ)でペートーヴェン」ピアノ三重奏第3番ハ短調」を演奏(Y)。

編集後記

一九九六年が過ぎ去ろうとしている▼この一年は、多くの事実から「民主主義とはなにか」

を学ぶことができた▼先の衆院選は自民勝利、共産躍進、新進・民主の停滞、社民惨敗という結果で、かつての消費税選挙で「自民党にお灸をすえましょう」とおたかさんが呼び掛け圧勝した旧社会党系候補が、今回は軒並み苦戦、お灸をすえられた格好だ▼だが、公約を守らず「国権の最高機関」に居座り続ける議員もおり、国民がお灸をすえる政治改革は序幕にすぎない▼また「政治家は薄汚く、官僚は清潔で優秀」という明治以来の神話も崩壊した▼それは、阪神大震災における危機管理能力のなさにつづき、薬害エイズ事件での国民を犠牲にし製薬会社の利益第一の体質に象徴される▼神話崩壊と連動するかのよう、国の情報公開制度の動きが伝えられてい

るが、「制度が情報規制の口実になる恐れ」を口にする専門家もいる▼市民が、官僚や役所に不信感を持つ原因の一つに「アカウンタビリテイの無さ」を挙げる国際ジャーナリストも少なくない▼アカウンタビリテイもレスボンシビリテイも日本語訳では「責任」▼だが、同じ責任でも、レスボンシビリテイは「仕事に手を抜かない」とか「いかなる時も職務に忠実」など道徳的責任を意味する▼一方のアカウンタビリテイとは、その事柄について、当事者(官僚)が相手(市民)に説明し、疑問には具体的に対応する、つまり「相手と正面から向き合い、論議を尽くす責任」を指すことだそうだ▼この相手と正面から向き合う論議は、民主主義の概念のはず▼これが苦手なお役人が、全体の奉仕者なんて、おかしい▼市民が行政に責任ある説明を求めるのは権利であり、相互学習になる▼川崎は市民市政、責任ある説明を嫌うのは市民市政の白蟻か(田)。

(裏表紙からのつづき)

どの講座も 楽しい 夢があるんです あなたは女性学？経済？芸術？時代？

かわさき市民アカデミーでは、4つの公開講座を来年2～3月に開きます。どなたでも受講できます。

通常の講座に比べ半分の回数にし夜間の講座が3つもあり、いずれの会場も駅のそばです。お勤めの帰りでも参加することができます。みなさんの受講をお待ちしています。

■申し込みは来年(平成9)1月8日午前9時から
☎422-3932へどうぞ

講座3 芸術は現代をどう表現してきたか

●2月12日から毎週水曜午後7～8時30分、全7回 ●中小企業・婦人会館3階

回	月/日	テ ー マ		講 師
1	2/12	絵画①	美術は現代をどう表現してきたか	西田秀穂・東北大名誉教授
2	2/19	絵画②		
3	2/26	映画～ヒットラーとチャップリン		江藤文夫・成蹊大名誉教授
4	3/5	ロシア文学①チェーホフを読む		和田あき子・東京外国語大講師
5	3/12	ロシア文学②ソルジェニツインを読む		
6	3/19	時代小説①藤沢周平の世界		評論家、中島 誠さん
7	3/26	時代小説②司馬遼太郎を読む		江藤文夫・成蹊大名誉教授

講座4 いまの“時代”を読む

●2月18日から毎週火曜午後7～8時30分、全6回 ●新百合21ビル地下2階

●講師は哲学者の内山 節さん ●テーマは仮で変更します

回	月/日	テ ー マ	回	月/日	テ ー マ
1	2/18	自然と共生する社会と時間	4	3/11	現代の経済と時間の価値
2	2/25	人間らしい暮らしと時間	5	3/18	時間支配の現代の不調和
3	3/4	時間の蓄積と収奪について	6	3/25	多様な時間世界を創造しよう

('97年2～3月)

かわさき市民アカデミー公開講座 受講生募集

- ◆申し込み 平成9年1月8日(水)午前9時から ☎422-3932の市民アカデミー事務局
 ◆受講料 どの講座も全回通して3,000円 ◆各講座定員50人(先着順)

講座1 男と女…性差を考える～暮らしの中のジェンダー探検

●2月14日から毎週金曜午後1～4時、全7回 ●会場：新百合21ビル地下2階

回	月/日	テ ー マ	講 師
1	2/14	キーワード“ジェンダー”って何?	杉森長子(日本女子大学)
2	2/21	ジェンダーでみるマスメディア	井上輝子(和光大学)
3	2/28	男と女…家族と自分	小玉亮子(横浜国立大学)
4	3/7	映画は何を語るか	一番ヶ瀬康子(東洋大学)
5	3/14	ことばは創られる	高崎みどり(東京女子医大)
6	3/21	作家と作品…小説の中の自画像	漆田和代(日本大学)
7	3/28	平和とジェンダーは関係がある?	杉森長子(日本女子大学)

講座2 地域経済の活路を拓く

回	月/日	テ ー マ
1	2/13	[講 義] 国際化のなかの川崎経済は?
2	2/20	[講 義] 川崎のモノづくりは?
3	2/27	[ワーク] モノづくりを中心とした地域経済は? ～川崎地区と大田区蒲田地区の事例から～
4	3/6	[講 義] 川崎の商店街・まちづくりは?
5	3/13	[ワーク] 商店街を中心とした地域経済は?
6	3/19	[ワーク] 商店街中心のまちづくりは?
7	3/27	[講 義] 地域経済の活路を拓く

●2月13日から毎週
木曜(6回目は水曜)
午後7～8時30分、
全7回

●会場：川崎駅前
タワー・リパーク
18階

■講師は交渉中

■[ワーク]は
ワークショップの略
(15ページにつづく)

●発行

(財)川崎市生涯学習振興事業団
電話044(952)5000代

FAX044(952)1350
〒215 川崎市麻生区万福寺一の二、新百合21ビル
編集人・田中 園